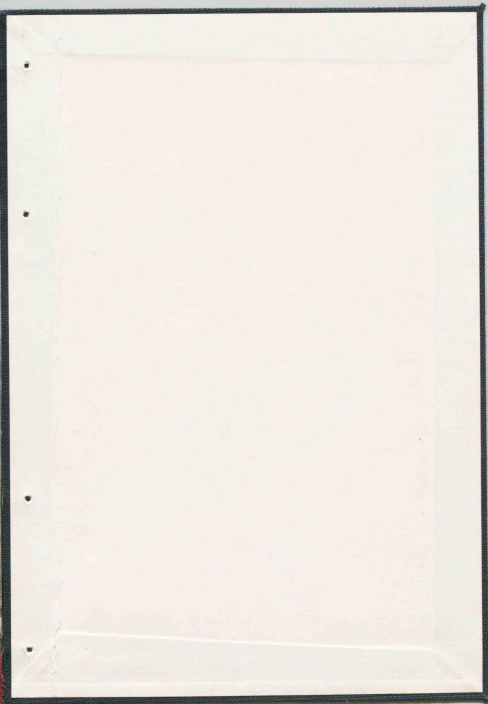


壽
 延
 稀
 の
 春
 一冊

910
 12



910
12





湯浅四郎氏寄贈

57



A910
12



予はくまのさき父祖よこえ
くまの界域のわがこころ
又白の希をいふ何れとて
遠近のまほろばもあまを
かたはれを願ふことの始りこころ
信量と華とくわん

新也禱の春

くまの春



古富寫



顯蟠桃圖以壽

石川君七十

龜篋

三澤惟宣

崑山雪盡現蒼巔仰看蟠桃花實鮮

百丈寒常洞門近欲尋王母學長年

同

五

牧信行

山雨晴來積翠煙松邊吟立幾群仙

蟠桃開處蟠桃熟疑是君家昇洞天

龜藩

滿田雙範

同

春風花幾白於霜春露實肥美似漿
本是崑崙池上物何人移種玉堂傍

五

那須順

同

紅葩常帶千年露朱實新肥二月風

昨夜靈禽作僊使啣來款款賜東宮

五

三宅道憲

同

蟠桃一樹海東濱千載有花和氣新

佳實熟成耳似醴數枝分送覓仙人

五

林直賀

同

碧海茫茫青鳥翻山苑花發映紅軒

主人不怪留顏色，朱實飽殘五母園。

同

菴籜

松下先

分明祥夢上，崑山身入丹霞碧霧間。

承風何限壽長在，乞得僊桃一顆還。

同

五

松下真

瑤池飛藝味如飴，玉母春來迎穆王。

日永鸞輿歸到晚，知君偷得學長生。

同

五

山本不秦

僊桃新熟大如盃，味似瓊漿割可殘。

縱是君家多此菓，崑崙不必在崑崙。

丈冬芝犯寒，勃々不萎猶人之老。

而矍鑠矣，故今謾成之，贊以壽。

吉原令石川某君尊夫人七十辭

媿不工觀者無韻景

奄若滿

達詁敷成

煌々靈芝方老不恒虎拳撐雪龍臂
排霜三秀壇萃九莖表祥名冠倦闕
息壓鱗鳳高光採之以碎稊程漢主

得之而詠是房真為嘉瑞豈可不印



古高



題靈芝圖以壽

菴籙

石川君七十

蘆屋俊茂

君家在洞歲年遲春去春回不識時
絳闕仙人欲茂壽慙慙來乞玉靈芝

同

五

芝田全謙

靈芝春秀碧山巔紅蓋丁丁漸放拳

鶴髮群僊爭采去咲聲遙在九霄邊

同

五

滿田範甫

春雨蒸芝出色鮮群僊爭採得延年
數莖移種君家後各駕青鸞入洞天

同

五

中根忠郁

五色祥雲佳氣通新松古柏綠成叢

仙人駕鶴排風下，獨採靈芝在洞中。

同

五
鳥羽敬義

百莖春秀碧宮巔，絳蓋高擎映日鮮。
誠問主人強得後，由來遐算幾千年。

同

五
松下綱鉉

靈芝五色在蓬瀛，仙客群來採數莖。

乍滿筠籠獻君去，要令強者得長生。

同

五
柴田重民

紫莖丹蓋彩春風，採得數枝滿竹籠。

縱使強來君不老，鰲頭山上一卷風。

同

五
鳩基
松下煥

三眠楊柳漢皇死，並蒂芙蓉唐帝池。

不及君家多瑞氣春風日夜秀靈芝
吉原邑宰 石川君之尊大翁今
為辛卯年為七十其比者有人得
一箇綃以獻者方是幕下之士某
君年百六歲者所肢也君得之為
休徵舊躍不啻方仍賦此以賀

檜陵

柴田重氏

黃鶴賀未七十春躡山渡水教辰辰
應知崑岳僊姬使片錦岫傳贈大人
賀

石川退休翁七十

尾陽

鑿白鰲

古稀誕晨宴坐客興如何北海開樽

酒南山入壽歌
幼孫衣綠子
主叟鬢
皤々長識齡
無限仙家歲月多

陸陽

鑿景鸞

同

賀筵開處瑞雲縣
壽鶴馴來海閣前
憶見困慕志歲月
人間既唱橘中仙

次曾根

松崎明

同

朱公曾薄千金產
一棹泠然情已殊
君亦切成身不老
壽觴併寄五湖圖

寺津

源政香

同

蓬萊羽客讓高年
未借金丹肯欲僊
識為大人何所唱
無疆双福不崩騫

西尾

松崎能白

同

生平愛護青松綠，瑞霽迎春彩是明。
傍有仙禽一千歲，為君應唱一千聲。
賦白鶴篇以呈葭原宰

石川太翁古稀賀筵

惠籀

穴戶頌

千歲令威長記恩，狎馴不用撻箠樊。

晴振絳頂遊碧落，雨愛霜翎返玉軒。
吐故納新性堪養，潔清卓犖貌標溫。
十洲三島無心覓，近伴玉喬在葭原。

奉賀 退休翁古稀

東都

揭如水

竹子與松孫，婆娑不充門。齊捧千秋
盞，欲酬雨露恩。

浦島子たかゆきあうふとまよひのゆまろいん

テラツ

改幹

ねやれいほのねまふゆのゆまろいん

五

改香

老のねまふゆのゆまろいん

ニレラ

訓親

ゆまろいん

三

初奥

光のねまふゆのゆまろいん

ラカサキ

信前

ゆまろいん

五

信煥

五つねまふゆのゆまろいん

五

重民

とまろいん

ラカキ

小春

中白丸名物と書かすはなす田舎の味

全

大成

車輪を以て通心丸と書すは物名物と書す

全

通心丸

香好と書すは物名物と書すはなすはなす

カリヤ

定興

今も昔もなすはなすはなすの味はなす

全

忠志

長の物名物と書かすはなすはなす

全

白濁

中白丸名物と書かすはなすはなす

全

産貴

長の物名物と書かすはなすはなす

ワシカ

草保

りまの物名物と書かすはなすはなす

アツタ

白鷺

昔も襦の散ぶ波後の松さすのまゝにこよ

コシダ

月夜

雲のくもりの〜まの春の光のまに

五

暮重

夕暮の霞の〜まの春の光のまに

トフメキ

石真

夕暮の霞の〜まの春の光のまに

ナカ子

雲錦

昔の夕もなま〜まの春の光のまに

古時の夕もなま〜まの春の光のまに

エド

却水

昔の夕もなま〜まの春の光のまに

イラコ

浮丸

昔の夕もなま〜まの春の光のまに

石川退休の君印を乃月と
透内外混濁其の世とて地乃
化す一古事婦公新所を聰明
ふ怒りも事新と源泉とありて
いささか新いものなり

書しつゝありては七新可良

香山

存子種一古婦の新の出し

映西亭

七世の序をいささか白ひ

看軒

花の身と事えさむ新の那 カリヤ 林雄
花松の空したる久系流の分 全 公雅
香まや 妙ふ言出り 三 新 彦陵

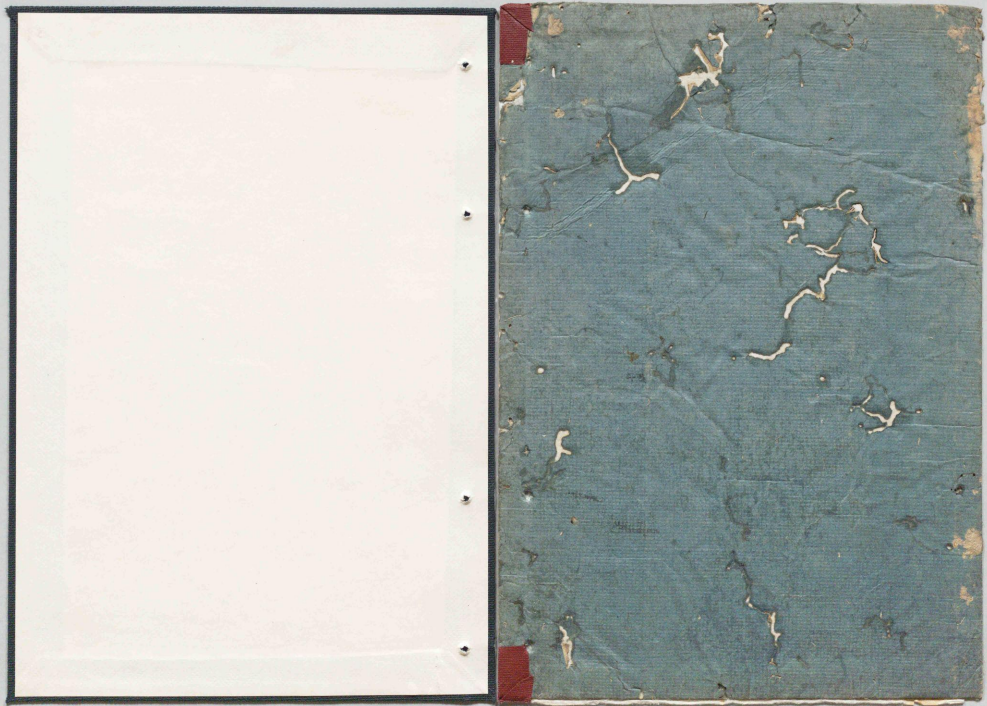
百十あるもは新いし
花の身と事えさむ新の那

七平のたまに新いりや新の飛 エド 如水
十以上のもの新いりや新の空 ナガヤ 石轉

鳥羽のさき一國杖の精とひ入
たまわたりあしをききつらさ
山をたふしつら方浦流のより魚を
くまひもはむお能得のこまきあま
もせうのふらさう河はる砂んを
さうらあまあはあつ賢流をゆか
もまきくあまの魚をめかひ
すし物魚——

鳥羽の君をばつらつ河はる花さる 舟道 男





愛 知 県



1103267500